

自己評価報告書

令和5年度 中央区立 中央小学校 自己評価報告書

学校名： 中央区立中央小学校

所在地：中央区湊1-4-1

校長名： 山本 有子

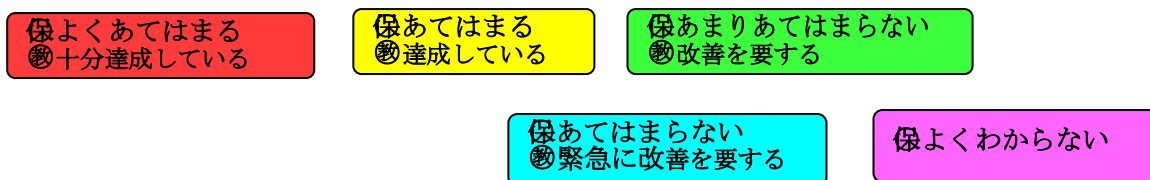
児童数 330名 学級数 13学級 教員数 17名 職員数 2名

本校では、「1 人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」、「2 児童の学力向上」、「3 児童の体力向上」の3点を重点目標に教育活動を行っています。これらについて、教員の自己評価を行うとともに、令和5年12月から令和6年1月にかけて保護者、児童（4～6年生）による学校評価アンケートを実施しました。保護者学校評価アンケートの回収率は、41.3%でした。

1 重点目標の達成状況及び取組状況

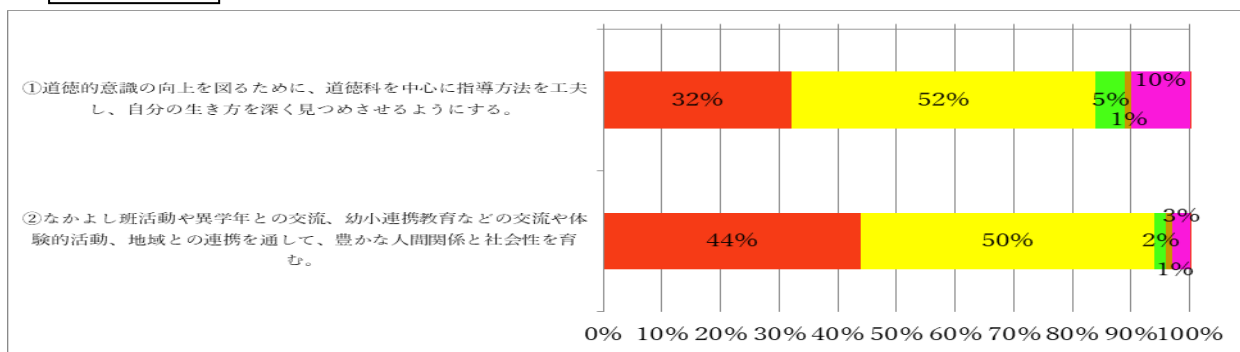
重点目標3項目の「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計を平均すると、教員は92.2%、保護者は88.0%となりました。以下、重点目標ごとの結果です。

〈グラフ中の色と内容〉

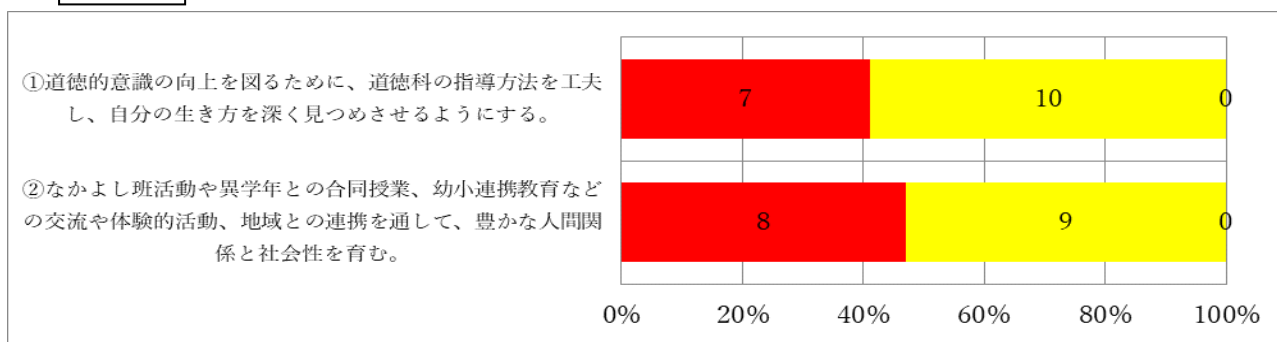


(1) 重点目標1「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」

保護者



教員



「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」の重点目標では、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計で、1項目について保護者から89.2%と昨年度よりも高い評価をいただいています。なかよし班活動などの縦割りによる活動や幼稚園との交流活動については、今年度は各種の感染症対策をしながら計画通り実施でき、令和4年度より実施の幅が広がりました。どちらの項目も、教員の回答では、「十分達成している」がやや低いですが、令和4年度よりも活動できる機会と場が増えた分、子どもたちの思いやる心の育成に向けて、活動の工夫をさらに進めていく必要があると考えます。

一方、平成30年度から始まった「特別の教科 道徳」を含めた道徳教育については、「よくあてはまる・あてはまる」との回答が84.4%となっています。昨年度の70.8%より14ポイント近く増加しています。教員の回答も同様に高いことから、引き続き学校全体での道徳教育について改めて重点を定め、道徳科の授業の充実もより一層図ってまいります。また、「よく分からない」との回答が昨年度20%のから10%へ減少した点についても、さらに道徳科の授業の理解を得られるよう、保護者会や個人面談等でより丁寧に保護者へ説明し、道徳授業地区公開講座の参観資料等の工夫を続けていきたいと考えています。

児童アンケートでの「学校の約束を守っていますか」は「よくあてはまる」「あてはまる」の肯定的回答が昨年度に減少し課題でしたが、今年度は85.5%と昨年度82.8%より2.7ポイント増加しました。

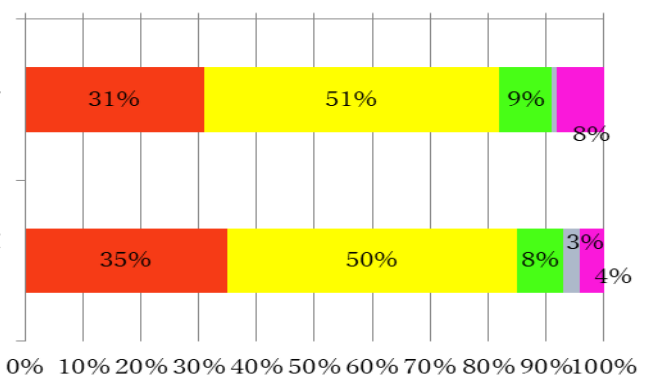
「先生は悩みなどについて話しやすいですか」は肯定的回答が54%と昨年度の57.3%より3.3ポイント減少しています。児童数の増加や産育休により担任が変わったことなどが背景にあり、児童一人一人に丁寧に接する必要が表れています。児童への声掛けを増やして改善を図ります。友達との関係づくりについて、休み時間の生活指導を含め、今後も工夫と充実を図ってまいります。

(2) 重点目標2「確かな学力の保証と学習意欲の喚起」

保護者

①学力向上プランに基づく授業を推進し、教材・教具の整備、教育環境の充実を通して、どの子どもも意欲的に取り組み分かる授業を行う。

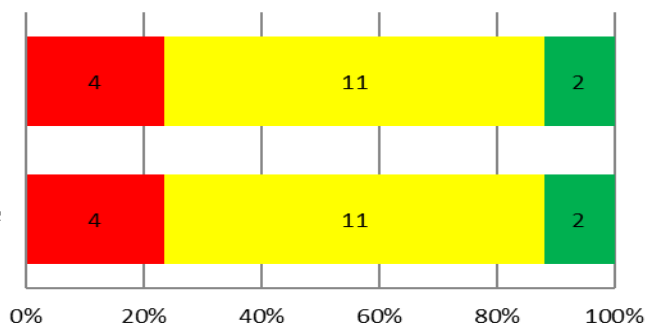
②チャレンジタイムや東京ベーシック・ドリル、タブレットの有効かつ継続的な活用と、家庭と連携した学習により、基礎・基本の学力の定着を図る。



教員

①学力向上プランに基づく授業を推進し、教材・教具の整備、教育環境の充実を通して、どの子どもも意欲的に取り組み分かる授業をする。

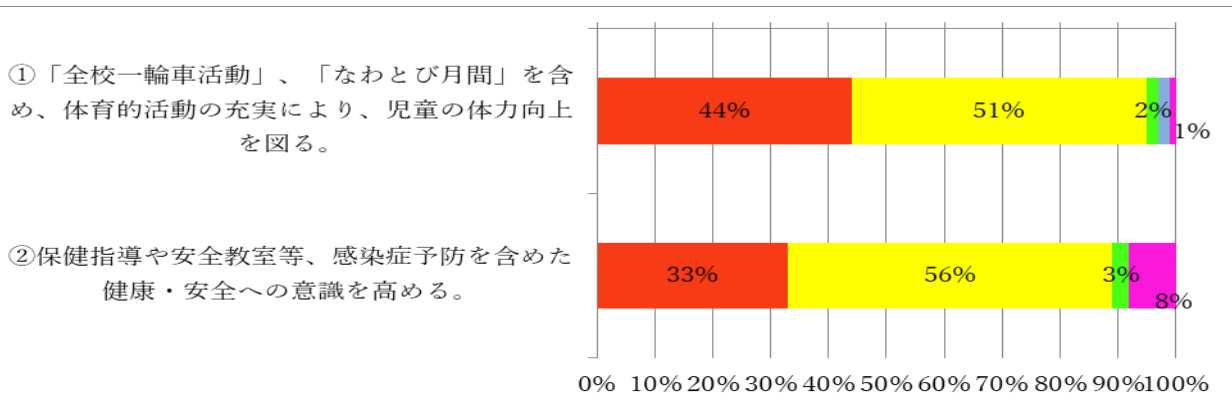
②チャレンジタイムや東京ベーシック・ドリル、タブレット有効かつ継続的な活用と、家庭と連携した学習により、基礎・基本の学力の定着を図る。



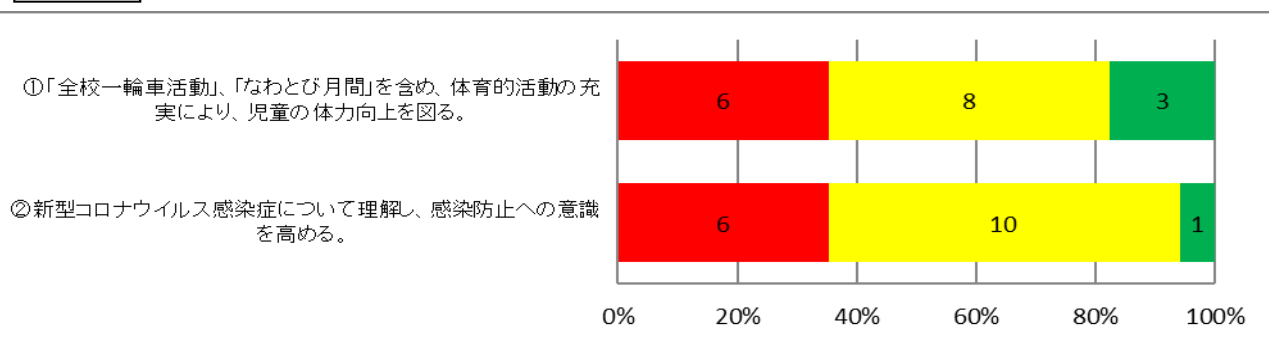
「確かな学力の保証と学習意欲の喚起」の重点目標では、83.1%以上の肯定的な回答をいただきました。学力向上プランに基づく授業を推進し、分かりやすい授業に努めてきているものの、保護者の評価では、「あまりあてはまらない」と「分からない」で16.9%となっています。全体として昨年度より3.7ポイント肯定的な回答が減少しています。教員の評価も「よくあてはまる」が昨年度より3ポイント増えましたが、あまり高くありません。児童へのアンケートで「授業の内容はよく分かりますか」については、93.5%が「よくあてはまる」「あてはまる」との回答で、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が6.5%です。昨年度から肯定的な回答が1.7ポイント増加しています。全国学力調査や学習力サポートテスト等各種学力調査の結果は区内でも上位校に位置する結果となっていることも踏まえると、学習力の向上に向けた取り組みの成果が保護者や教職員にも見えづらい現状があるようです。校内研究を積み重ね、さらに授業改善に取り組み結果を教職員が共有することと、保護者にその内容について伝えて、家庭と連携した学習環境の構築をしてまいります。今年度の各種学力状況調査において、本校の4～6年の子どもたちの平均は、全国の平均より上まわりました。また区の平均も上まわる教科が多く見られました。昨年度よりもさらに改善されています。来年度は教員が学年内で教科担任を行い、今年度同様にチャレンジタイム（朝学習）、夏休み学習広場など基礎・基本の定着を図る取組を継続させ、家庭学習についても保護者と連携をとりながら、「基礎・基本の学力の定着」を図っていきます。

(3) 重点目標3 「児童の体力と健康への意識向上」

保護者



教員

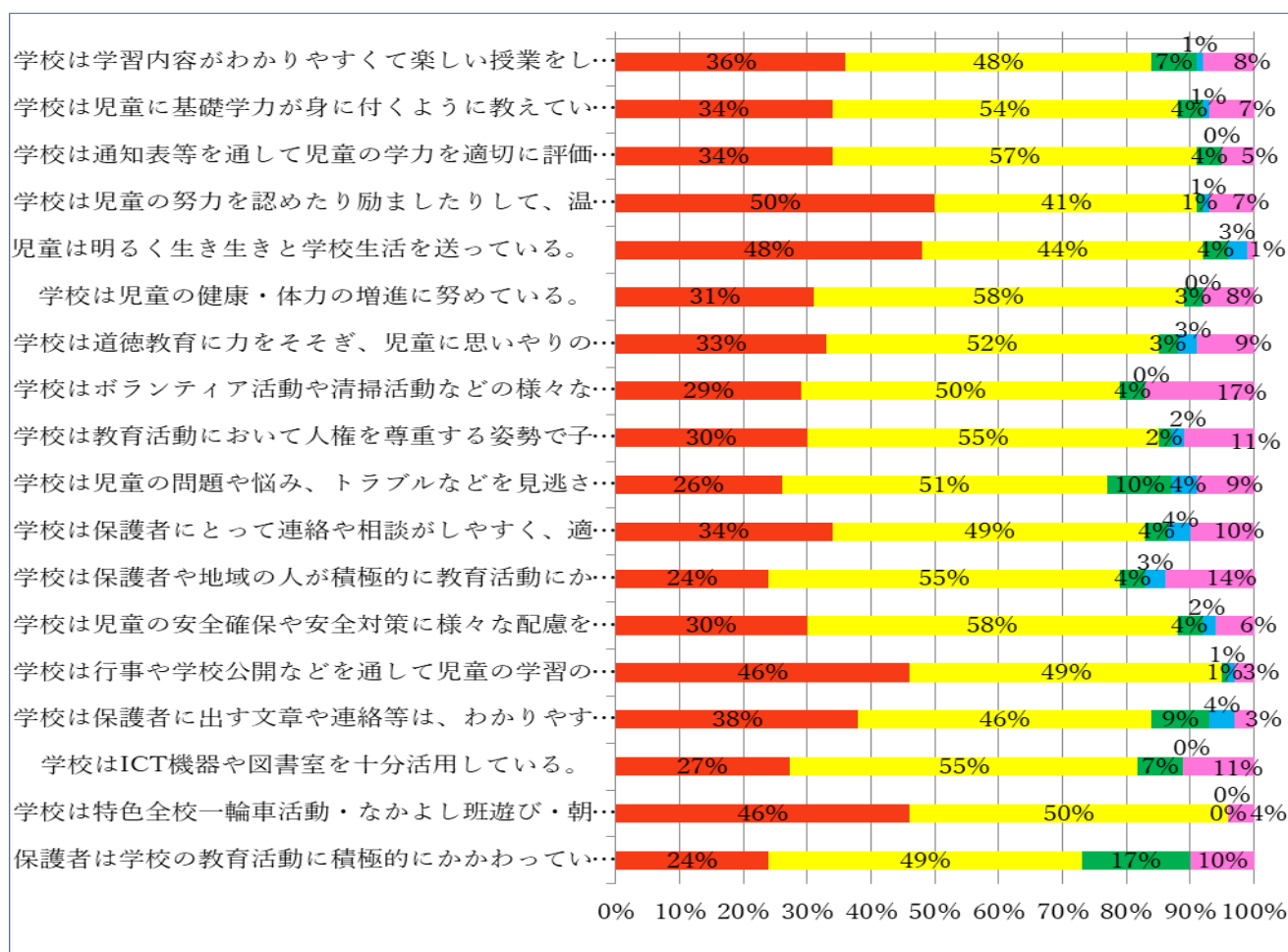


「児童の体力と健康への意識向上」の重点目標では、91.7%以上の肯定的な回答をいただきました。本校の特色である全校一輪車活動を含めた様々な体育的活動に対してご理解をいただけていると考えます。また、新型コロナウイルス感染症の流行下でも個人で取り組める「なわとび」への取り組みを工夫し、

指導しています。児童のアンケート結果では、「休み時間（一輪車）や体育の時間などで運動や遊びをしていますか」の項目に、88%の児童が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しています。昨年度より9ポイント増加しています。児童数の増加により校庭や体育館使用の空間的・時間的余裕が以前より減りつつも、感染症対応による制限がなくなった環境が原因のひとつに考えられます。さらに、全国体力調査の結果の殆どで全国平均を上まわっていることから体力づくりへの取組の成果が見て取れ、引き続き取り組みの工夫をしております。また今後は、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した児童への指導の工夫を考えていく必要があります。一人一人の子どもが自分の健康について考え、すすんで体力づくりに励むことができるよう体育的な活動をさらに工夫していきます。教員の回答では「十分達成している」「達成している」の回答が88.2%でした。なわとび活動に取り組む上で、取り組み方法についてさらに児童が主体的に取り組めるよう改善の余地を検討しています。日常的な体力づくりへの取組について工夫し、充実させていくことを考えていきます。

2 重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況

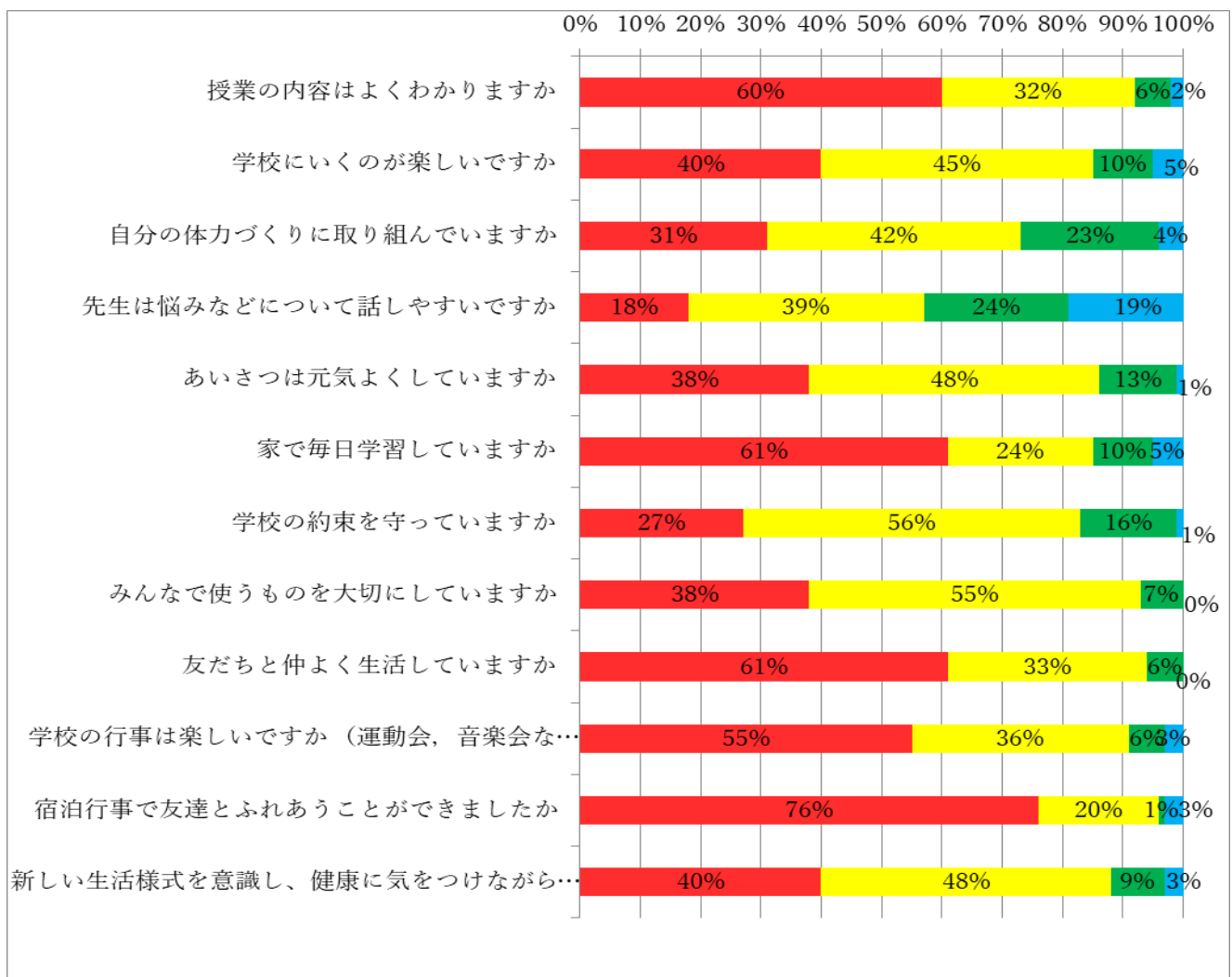
<保護者アンケートによる評価>



全体の評価については、18項目中、14の項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価が昨年度同様に80%以上、5項目が90%を超えるという評価をいただきました。昨年度と比べると、90%以上の評価が7項目から2項目減となりました。昨年度減少し課題であった「学校は保護者や地域の人々が積極的に教育活動に関われるようにしている」の項目は、今年度は昨年度より7ポイント高い評価となり、感染症対応による制限がなくなり地域や外部の協力を得ながら活動できたことが表れています。その一方で、「学校はボランティア活動や清掃活動などの様々な奉仕活動を行っている」と「学校は保護者にとつ

て連絡や相談がしやすく、適切に対応している」の項目で「わからない・無回答」がそれぞれ5ポイントと9ポイント程度増えていることが課題です。この項目では「よくあてはまる」「あてはまる」の評価もそれぞれ昨年より6ポイントと8ポイントの減少となっています。保護者には、今後も学校だよりや各学年だより、学校ホームページなどで本校の教育活動について発信をすることでご理解いただき、保護者会や個人面談、学校公開、学校行事などを通じて子どもたちの成長に向けて関わっていただけるよう呼び掛けるとともに、学校行事のあり方について工夫をしたり、必要な際は細かに保護者への連絡を取る等したりしていきたいと考えています。また、スクールカウンセラーとの連携の強化や複数の教員での児童対応など、より一層児童一人一人に応じた相談体制や指導体制を整備し、保護者からの信頼を得ていく必要があると考えています。項目別に見ると、特に今年度の取組について、「学校は通知表や個人面談等を通して児童の学力を適切に評価している」の項目で90.4ポイントの肯定的な評価がされ、昨年度よりさらに3.3ポイント増加しました。昨年度より年間2回の通知表と、年間2回の個人面談により、合計4回の保護者へのフィードバックを行ったことが表れたと考えます。Google classroom で保護者へ学習の予定や過程を伝えるなど、これまで以上に児童の学習の様子や成果を保護者へ伝える工夫をしております。

<児童アンケートの状況より>



4～6年児童によるアンケートの全体の評価では、昨年度と同じく12項目中、10項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計が80%以上となり、その内5項目で90%以上という評価となりました。

特に、「宿泊行事（セカンドスクール・館山林間学校・本栖移動教室）で友達とふれあうことができましたか」「みんなで使うものを大切にしている」「友だちと仲良くしている」などでは95%近い評価となりました。学校生活での児童自身の達成感の表れであると捉えることができます。中でも「宿泊行事で友達とふれあうことができましたか」は、「よくあてはまる」「あてはまる」が97%と、宿泊行事が再開されたことによる児童の達成感の高さがみられます。「ものを大切にしている」項目では、貸与されたタブレットを扱う中でも指導を重ねた結果、この意識が醸成されているようです。

「自分の体力作りに取り組んでいますか」では、「よくあてはまる」「あてはまる」が昨年度より5ポイント増加しました。感染症対応による制限がなくなり、体育科を始めとした運動機会の増加が関係していると思われます。今後も児童の運動量について工夫して確保しながら活動を進めていきたいと考えています。

「あいさつは元気よくしていますか」については、肯定的な回答が82.3%です。昨年度より4.1ポイント減少しています。生活指導や道徳の取り組みを通じて、100%の子どもが肯定的な評価ができることを目指していきます。

気になるところでは、「先生は悩みなどについて話しやすい」の項目の肯定的な評価が54.0%と低く、昨年度からも3.3ポイント下がっていることです。原因として、コロナ禍の対応時に会話を制限された影響や、児童増によりかつて少人数規模だったアットホームな関係と同じ関係が保ちにくい現状が背景にあると考えます。次年度に向けて、これまで以上に子どもたち一人一人に寄り添い、子どもたちの道徳性や自らに関わる人々を大切に思う意識と、自己肯定感を高めていけるよう取り組みます。

3 今後の改善方策

- (1) 教員の指導力を高め、授業改善を行い、児童の基礎・基本の力を定着及び学力・体力の向上により、児童の達成感を高める。
 - ・校内研究の充実、算数少人数指導体制の充実、チャレンジ（朝学習）の充実、体育的な活動の充実、ICT機器の活用、ICTも活用した家庭学習との連携強化 など
 - ・教員の働き方改革の着実な取組により、授業や子どもと向き合える時間を増やす。
- (2) 一人一人の子どもを把握し、子どもたち同士の間関係を良好にするために、人権尊重を基本とする教育活動を充実させる。
 - ・思いやりを基本とする学級づくり、道徳科の授業の充実、子どもたちの活躍の場の設定、3つの「あ」（あいさつ、あつまり、あとしまつ）の励行 など
 - ・生活指導や教育相談に対しては、未然防止も含め「迅速・誠実・丁寧」を大切にされた対応に努める。
 - ・スクールカウンセラーや担任以外の教員等、複数の教職員で児童の育成・対応にあたる体制づくり。
- (3) 保護者・地域との連携を深め、学校・保護者・地域が一体となって教育活動を進める。
 - ・学校公開、学校行事、特別授業などでの地域・保護者との関わりと情報発信の充実
 - ・学校だより、学年だより、Google classroom、学校ホームページ、タブレット活用などでの発信の充実
 - ・保護者会、個人面談、教育相談などでの情報交換の充実